

PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



勝敗の決定

勝敗の理由

個人コメント（良かった点、改善点）

PDA 認定教育ジャッジとは

2017 年度文部科学省委託事業から本格実施



PDA 認定教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で即興型英語ディベートの教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。単にディベートが上手い人ではなく、教育的配慮をもって生徒の学びやモチベーションを高められるジャッジができる人材のため、PDA 認定「教育」ジャッジと名付けられています。

ここで取り扱う「即興型英語ディベート」は、50 分の授業で完結するフォーマットです。6 年以上の文部科学省委託事業での取り扱い実績のあるディベートシステムで、課外活動等の一部の生徒が取り組むものではなく、授業の中で一般の生徒が十分取り組める仕組みであることが実証されています。PDA は、授業や公式大会においてジャッジが求められる際、認定を受けた教育ジャッジを推薦します。

受験資格

1. 大学生以上。PDA 個人会員であること。
2. ディベートおよびジャッジの実践経験 ※1 ※2
 - (1) ディベート実践を 6 回以上。
 - (2) ジャッジ実践を 6 回以上。(内、3 回以上を PDA 公認の授業現場において実践)

本冊子では、学校教員の中から、一部の PDA 認定教育ジャッジをご紹介します。皆さん、各校にてご活躍されています。



筆記試験

※会場受験

8 月合宿@大阪、12 月全国大会@東京、3 月@全国教員研修@大阪、他教育委員会等連携の研修会にて

- ルール
- ジャッジとしての心構え等



ディベート実技試験

※インターネット受験（ネット上でディベート実践）

毎月実施中。zoom を使用。マイクおよびウェブカメラが使用できる PC をご用意ください。（画面は小さくなりますが、スマホやタブレットでも zoom は使用可能。）

- 基本的な構成のスピーチができる。
- タイムマネジメントができる。
- POI を 1 回以上出せる。
- POI を 1 回以上受け、適切な返答ができる。
- アイコンタクトがある。（スピーチ時間の 50% 以上）
- 説明において大きな論理の飛躍が見られない。



ジャッジ実技試験

※インターネット受験（配信動画をジャッジ実践）

ネット動画が見られる PC とご自身の様子を撮影できるビデオカメラ（スマホやタブレットでも可）をご用意ください。試験時間に、ディベート試験動画を配信。司会進行からジャッジコメントまで、ご自身がジャッジをしている様子を動画で撮影、動画データを提出。

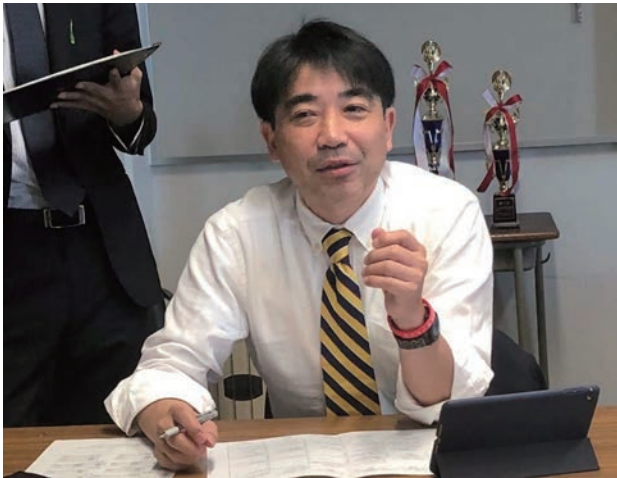
- 司会進行ができる。
- 授業時間を考慮したタイムマネジメントができる。
- 勝敗を出せる。
- 論理的にある程度納得できる勝敗の理由を述べられる。
- 建設的な個人コメントを述べられる。
- 教育的配慮に欠けない。



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



當麻 進仁先生（青森県立青森高校）

青森県での即興型英語ディベートの導入・推進に当初よりご尽力され、
生徒・教員ともに学びの場を設定いただきました



濱田 剛志先生（青森県立五戸高校）

第1回 PDA 岩手県高校即興型英語ディベート交流大会にて
隣県からの推進にも尽力いただきました

青森県

2日間集中型での教員研修

青森県では、2日間集中型での教員研修を行い、教員自身がディベートおよびジャッジの実践を行う機会を設けました。これにより、授業でできる即興型英語ディベートへの理解を深めました。また、希望者は PDA 認定教育ジャッジ試験の受験にも挑戦しました。筆記試験は、当該教員研修会場および青森県高校即興型英語ディベート交流大会にて行いました。ディベートおよびジャッジ実技試験はインターネットを用いて受験しました。

Q) PDA 認定教育ジャッジ資格 を取得した理由は何ですか？

- 6年前、青森で英語ディベートをやりたいと思い提案しましたが、受け入れられませんでした。ディベートを分かっている人がいる必要があると思い、自分になれるならなろうと思い、受験することを決めました。（當麻先生）
- ディベート交流大会を見学したことがきっかけです。様々な高校の生徒が短い時間で準備をし、イキイキと人前でスピーチしている様子を見て、ジャッジに興味を持ちました。（濱田先生）

Q) PDA 認定教育ジャッジ資格を取得して変わったことはありますか？

- 生徒への指導内容が格段に変わりました。ディベートで何が重要なのか、ということ自分を理解することで、生徒にもそれを教えることができるようになりました。（當麻先生）
- 自分の英語力を見直すようになりました。いろいろなトピックに対応できるようにと知識を身につけようと思いましたが、論理的思考についても意識するようになりました。（濱田先生）

PDA 認定教育ジャッジ試験にも挑戦！

Q) PDA 認定教育ジャッジ試験で難しかった点などありますか？

- すべて難しかったです（笑）。その中でも、ジャッジ実技試験の中で、この主張に十分な説得力があるのかどうかということを根拠をもって説明することが特に難しかったです。（當麻先生）

- ジャッジをする際、ディベートを見る基準を考え、勝敗を出すということが難しいなと感じました。また、限られた時間の中で勝敗を出してコメントをしきることも大変だなと感じました。（濱田先生）



神奈川県

神奈川県教育委員会との連携

神奈川県教育委員会・学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループの協力を得、教員が「公務として」即興型英語ディベート学べる年間 6 回の研修を開催しました。

平成 29 年度から今年度まで、3 年間にわたり、公務としての研修が続いています。教員が、即興型英語ディベートの実践を行うことはもちろん、ジャッジについても勉強し、さらに、交流大会にて生徒に対して教育的配慮を伴うジャッジ実践を行っています。



研修修了証を授与された参加者

神奈川県教育委員会における PDA と連携した英語教員の人材育成について

- ✓ 平成 28 年度までの取組を受けて、継続的な研修会を通じた人材育成を可能とするために、エントリー校の校長と県教育委員会高校教育課が協議し、交流会と人材育成のための研修会を高校教育課の主催とし、参加教員の公務性を担保するとともに各校での継続的な人材育成と授業改善を可能とした。
- ✓ 研修内容としては、即興型英語ディベートを活用して英語の授業改善を行うことを目的として、校長推薦による教員に対して年間 7 回の研修会を実施し PDA 認定教育ジャッジ資格の取得を目指すこととした。

元神奈川県教育委員会 高校教育企画室
時乗 洋昭先生

- ・教員の主体的な学び
- ・授業への導入

研修



- ・主体的な学びの評価
- ・モチベーションの向上

表彰



- ・見える形で成果を実感
- ・質の高い授業提供

認定



文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
主題：即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築

文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
主題：即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発

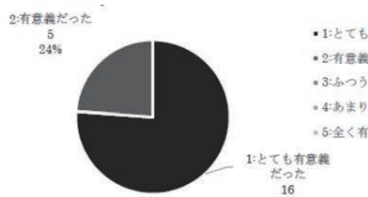
公務としての研修 年間 6 回午後に

神奈川県教育委員会高校教育課主催の公務としての研修に参加し、ディベートおよびジャッジ実践回数をこなし、PDA 認定教育ジャッジ試験受験資格を得ました。試験にもみごと合格し、資格を取得されました。

Q) PDA 認定教育ジャッジを目指せたモチベーション、合格できた秘訣

PDA 認定教育ジャッジを目指せたモチベーションは、ディベートで自分の考えを伝えられなかった悔しさと、伝えられるようになりたいという願望から来ています。ディベートでうまく話せずに悔しい思いをしたとき、もっとルールや役割を理解する必要があると感じました。それらを効率的に学ぶは、PDA 認定教育ジャッジを目指すのが早いのではないかと考え、受験を決めました。

試験には、ディベートの実技、ジャッジの実技、筆記と 3 種類があります。実技に関しては、研修で回数を重ねてきたので、試験でも同じような気持ちで取



Q1. ディベート実践は有意義だったか。
平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 3 回研究会(N=21)

り組むことができました。緊張せずに力を発揮できたのは、交流大会などを通して人前で話すことに慣れることができたからだと思います。数をこなすことで、ディベートに対する不安がだんだんと自信に変わっていきました。筆記に関しては、基本的なルールやジャッジの役割に加えて、必要とされる教育的配慮まで答えられたことが、合格の秘訣だったと考えます。これらを自然に考えつくことができたのは、即興型英語ディベートを授業に取り入れてきて、生徒の様子を間近で見てきたからです。生徒に混ざり、実際にディベートやジャッジをすることで、生徒の抱える困難点やジャッジとしての心得を理解することができました。また、生徒が喜んでディベートをしている姿は、即興型英語ディベートについてもっと深く学ぼうという私自身のモチベーションにつながりました。



近藤 飛鳥先生
(神奈川県立保土ヶ谷高校)

神奈川県

社会科教員も

PDA 即興型英語ディベートに出会ってから 5 年が経ちます。それまでは、全くの初心者でしたので、最初の年は、PDA 神奈川県交流大会に向けて、独自に調べて生徒に話していました。これでは、全く進化していかないので、多くの先生方に話を伺いました。そして、ジャッジができないと生徒に教えることができないと考え、PDA 認定教育ジャッジ資格も取りました。

生徒はある程度英語ディベートができるようになると、ジャッジに公平性と適確な説明能力を求めていますので、ジャッジを勉強する必要性が出てきます。また、ジャッジを勉強するとディベートのテクニカルな部分だけでなく、生徒の良いところも見つけて褒めるテクニックも身につきます。特に若い先生には、是非やっていただきたいです。(林先生、地歴公民科)



林 弘一先生 (神奈川県立相模原高校)



宇佐美 修先生
(栄光学園高校)



河野 周先生
(聖光学院高校)



早坂 大先生
(神奈川県立横須賀高校)



2019 年の神奈川県公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
前列には 17 校からの校長先生方が並びます
多くの校長先生方のご理解・ご参加があることも PDA の大会の特徴です

長野県

交流大会から全国大会、世界交流大会へ



青木 郁子先生
(長野県松本深志高校)



池上 博先生
(長野県松本県ヶ丘高校)

交流大会 教員研修も兼ねながら、推進

長野県では、PDA 長野県高校生即興型英語ディベート交流大会や教員研修を開催させていただきました。また、長野県からは、毎年夏に大阪で開催しているPDA 高校即興型英語ディベート合宿・大会、冬の全国大会、そしてPDA 学校会員向けの遠隔ディベートなど、多くの機会に継続的に参加され、学校を超え、地域としても即興型英語ディベートのノウハウが広がっています。PDA 認定教育ジャッジについても早い時期から複数名の教員が資格を取得しています。

(池上先生)「おそらく最高齢での認定ジャッジ挑戦。準備型のディベートではジャッジに客観的な資格はなし。そこで客観的にジャッジとして認定してもらうよい機会と思い受験しました。こんな私ですが、ディベート実技試験で不合格になりました。PDA の形式を無視してしゃべりまくり、POI をすべて拒絶したことが原因です。教育ジャッジに熱烈ディベーターは必要ありません。PDA の format を理解し、PDA 規則を忠実に実践できる指導者です。Hello everyone ...で始まる素直なディベートをし、生徒に温かいまなざしを送ることができればだれでも教育ジャッジの資格があります。」



文部科学省・外務省後援
第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会にて

松本県ヶ丘高校は、地域交流大会に参加し、そして全国大会優勝
世界交流大会に参加しました



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



岡本 領子先生
(京都府立嵯峨野高校)



PDA 京都公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
POI のポーズとともに

京都府

PDA 即興型英語ディベートを初任者研修に

京都府総合教育センターは、京都府が設置する教育に関する研究及び教育関係職員の研修を行う機関です。2017 年度から毎年、即興型英語ディベートを取り入れた教員研修を行っています。新学習指導要領を踏まえ、PDA で紹介する授業でできる形式の即興型英語ディベートの手法を学び、また実際に教員がそれを体験する形です。

2017 年度には、中学校・高等学校教員の希望者が集まりました。他教科(理科)担当の教員の参加もありました。

2018 年度には、中学校・高等学校教員の希望者に加え、高等学校教員の初任者研修としても位置付けられました。

2019 年度には、2018 年度の形に加え、中学校教員の初任者研修としても実施されました。中学校・高等学校の教員が共同で研修に参加することにより、中高連携の意見交換もしやすくなりました。

なお、初任者研修とは、法定研修であり、初任者は悉皆で参加となる。京都府の初任者研修で設定している教科教育 7 回のうち、1 回(午後)に、当該即興型英語ディベートの研修を設定しています。

中学校にも広がる即興型英語ディベート

Q) 研修をしてよかった点は?

1. 内容がディベートのノウハウだけでなく、新学習指導要領を踏まえ、言語活動に即興性が重視されること、また高等学校においては「論理・表現」の科目案の中での使用が期待されることなど、今後の指針を踏まえた説明がなされたこと。
2. ディベートの理論だけでなく、50 分の授業の中でできる流れの説明、そして教員自身がディベート実践及びジャッジ実践を体験できたこと。
3. 特に、ディベート後のフィードバックとして、どのように建設的なコメントを生徒にすればよいかの事例を講師より学べたこと。

大槻裕代先生(京都府総合教育センター研修・支援部
研究主事兼指導主事)

PDA 認定教育ジャッジである岡本先生は、左記の京都府総合教育センターが実施する初任者研修の即興型英語ディベートと実践において、模範のジャッジとしても参加者をリードし、ご活躍されています。

また、京都では、京都公立高等学校長会 国際・外国語部系部会のご協力を得、PDA 京都高等学校即興型英語ディベート交流大会も実施しています。そのような交流大会においても、PDA は認定教育ジャッジの先生方を推薦しています。

(岡本先生)「人として成長する場として英語ディベートを活用するときに、俯瞰的客観的にそのやりとりを振り返る事が非常に重要だと考えます。ジャッジはその振り返りをファシリテートする大切な役割だと認識しています。認定ジャッジになる過程で得た経験は、競技ディベート未経験であった私が教育ディベートに関わり

り始めた際、私自身の自信となってくれました。一つ一つの論題に向き合う経験を積むことが論理的思考力を鍛え、対話する力を育みます。これからもディベートを楽しみながら、生徒と一緒に成長していきたいです。」



PDA 認定教育ジャッジのバンド



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE

兵庫県

兵庫県では、兵庫県立教育研究所や兵庫県教育委員会における教員研修をお手伝いさせていただきました。

関西公立高校即興型英語ディベート交流大会

では、会場校の大阪府立北野高校、京都市立堀川高校、奈良県立奈良高校、滋賀県立膳所高校、滋賀県立彦根東高校、兵庫県立神戸高校の6校が集結し、熱い議論を交わしました。兵庫県からはPDA認定教育ジャッジの田村駿先生がジャッジとして参加されました。

遠隔ディベート研修（2018年度文部科学省委託事業）

では、全国の多数の地域から教員が集まり、インターネット上で、ディベート実践およびジャッジ実践の研修会を行いました。



田村 駿先生（兵庫県立千種高校）

関西公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
校長先生方と並んで、決勝のチェアジャッジを務めていただきました

遠隔 ディベート研修

放課後、休日を使って

Q）PDA 認定教育ジャッジ資格取得までの道のり

兵庫県の教員研修でPDAに出会って、そのポテンシャルと英語のみならず、さまざまなソーシャルスキルの育成に直結する手段であることに非常に魅力を感じ、そこから自らPDAについて実践やレクチャー、座学を通して勉強すると同時に、さまざまな到達度の生徒に還元するための活用方法について勉強を重ねました。その中で「認定教育ジャッジ」取得

に向けて学ぶことが、生徒へのより良い指導に向けた道しるべになると考え、1つの目標にすることにしました。特に昨年度、年度を通して行われた「オンラインレクチャー」を受講し、中川先生や推進委員の先生方から直接レクチャーと実践フィードバックを頂けたこと、また、受講された全国の先生と実践を通して交流できたことが目標達成だけでなく、自分のスキル向上の大きな助けになりました。そのおかげで、「認定教育ジャッジ」を取得することができました。（田村先生）



PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
最前列に校長先生方が並びます

福岡県

即興型英語ディベート授業モデル校 福岡県立城南高校から



即興型英語ディベートを授業に導入して6年が経ちました。全校規模での導入成功の秘訣をよく聞かれますが、3年間の指導シラバスの作成や、定期考査への毎回の出題などが根底にあるのは事実です。しかしそれよりも生徒が意欲的に楽しく英語を学ぶようになり、また成績も向上しているそ

の事実が私たち教師の背中を強く押してくれました。他教科の先生からも「質問の質が良くなった」とか、「創作ダンスの表現が驚くほど豊かになった」などのご指摘があり、即興型英語ディベートの多岐にわたる教育効果を学校全体で共有し実感してきたように思います。現在は、議論の

質を高めるため国語科とコラボして論理について学ぶなど、教科横断型の展開を心がけています。これからも本校を支える大きな柱のひとつとして即興型英語ディベートに真摯に取り組んでいきたいと思ひます。（石橋先生）

3 学年全校生徒 1200 人で 教科を超え、学校全体で、即興型英語ディベート授業

ルールを知ったばかりの英語科の教員と、英語は大学以来という他教科の教員。このメンバーによるラウンドが私と即興型英語ディベートとの最初の出会でした。このジェスチャーゲームのようなラウンドで大笑いしてディベートへの根拠のない苦手がなくなったと同時に、印象的だったのはジャッジからいただいた丁寧な個人コメントでした。言いたかったことを十二分に汲み取っていただいて、全員で機嫌な気分になったのを今でもよく覚えています。

その後数日間は、ほめていただいたことを思い出してはニヤニヤし改善点を思い出せば「どうしてもう少し気の利いたことが言えなかったのか」と悔しくなり。今思うに、この「後を引く気持ち」にさせる個人コメントが即興型英語ディベートの魅力のひとつのように思います。私は PDA が推奨されるジャッジの手法を真似て生徒を指導してきましたが、単に勝敗を決める「ジャッジ」ではなく「教育ジャッジ」であろうとすることが全校での授業導入実現の鍵だったと確信しています。

とはいえ「私には無理」と思われる方も多いと思います。私もそうでした。しかし、指導するうち「立場は人をつくる」という言葉が頭をよぎるようになりました。教育ジャッジという立場を意識し始めてから自分の指導法にぶれない軸ができたように思います。まだまだディベート初心者の私ですが、教育ジャッジの先輩方の背中を追いかけて自己研鑽に努めたいと思っています。



石橋 由利江先生
(福岡県立城南高校)

青森県教員研修会にて



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



山本 朝昭先生
(熊本県高英研会長・熊本県立第二高等学校校長)



熊本県教育委員会・熊本県高英研による
PDA 認定教育ジャッジ試験向け教員研修にて

熊本県

熊本県教育委員会・熊本県高英研による 教員研修

熊本県では、PDA 設立の前身プロジェクトである文部科学省助成事業 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」(<http://englishdebate.org/>)の活動時代(2013年度～)から即興型英語ディベートの生徒および教員向け研修を開催していただいております。また、全国初の中学生の PDA 即興型英語ディベート体験会および交流大会が 2016 年度に開催されるなど、時代を先取りした企画を牽引されてきた熊本県高英研会長・熊本県立第二高等学校校長の山本朝昭先生に、以下インタビューをいただきました。なお、2019 年度には、熊本県教育委員会・高英研による PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた教員研修を設定いただきました。

Q) PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修について

(6 年前でしょうか。)中川先生をお呼びして、即興型英語ディベートの体験会を開催した時、PDA ジャッジの方々のコメントの出し方にすごく感銘を受けたことを思い出します。全く話せていない生徒に対しても、必ずほめる言葉があって、決して傷つけることがない。どの生徒も、またディベートをやってみたいという気にさせるコメントなんですね。次のディベートにどのような気持ちで、どう向き合うかということが、伸びを左右する一番大切なポイントです。そこをうまくやってほしい。

即興型英語ディベートのルールなどのうわべだけをかじって、形式的なマネだけであっても、ジャッジがうまく機能しなければ成功しません。「お題の立て方」や「ジャッジの視点の持ち方」、「多様な生徒のモチベーションをどうアップさせるか」など、生徒のやる気を引き出す、面白いと思わせるジャッジの在り方を勉強しておくことが大切です。「こうすればよかった」というマイナスの指摘のみを言うのが一番良くない。そのような意味で、ジャッジ研修会で、教育的配慮を伴ってジャッジができる技量を鍛えてもらう価値はとて大きいです。ジャッジ認定によって身についたスキルは、他の領域においても転移可能性が高いはずですし、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる英語教育の実践者として、ジャッジ認定制度が活用できるのではないかと思います。

PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修 3 日間 (連続する 2 日と交流大会) 教員 22 名の登録

PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修では、教員自身がディベート実践を行い、ジャッジにコメントをもらう側に立つことで、生徒の視点を得ることができます。今日のジャッジ研修でも、先生たちが自ら体験したことによって、生徒の気持ちを理解したジャッジができるようになったという感想を述べていました。このような機会はなかなか無いですし、相当に充実した研修だったようです。

最後に、即興型英語ディベートは学びの手段のひとつです。教科書に出てきたテーマだけでなく、日々の生活の中に見つけた課題や社会の在り方などについて、自分の意見を持つことが大切です。そして、意見を出し合って、論理的に説得したり、説得されたりして、深い学びにしていく。そういった力を鍛えていく手段として、即興型英語ディベートは大変効果的です。最初は、意見を

持ったり、英語で話したりする練習ですが、繰り返し、即興型英語ディベートに取り組むことで、次のステップには、より深い学びにつなげていくことができます。

Q) 即興型英語ディベートが授業導入に適切である理由

即興型英語ディベートは授業との親和性が非常に高く、次のような利点があると考えています。

1. 授業 1 単位(50 分)で完結できること。
2. 授業 1 単位のなかに、4 技能の全てが織り込まれる 4 技能統合モデルであること。
3. 「主体的・対話的で深い学び」を促進するコミュニケーションゲームであること。
4. 「何を知っているか」にとどまらず、「英語を用いて何ができるか」の実践モデルであること。
5. ゲーム的要素が生徒の意欲を高め、英語による活動を楽しめること。

(6. 活動量が活動の質を確実に高めること。)

(山本先生)



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



Brink Bojan 先生 (沖縄県立球陽高校)

文部科学省事業 遠隔ディベート教員研修にて
本土から離れた沖縄からも、
ディベート実践およびジャッジ実践にご参加いただきました

沖縄県では、2016 年度および 2018 年度に、教員研修を開催させていただきました。また、2018 年度には PDA 沖縄県高校生即興型英語ディベート交流大会が開催されました。文部科学省事業における教員向けの遠隔ディベート研修では、沖縄県から複数名の教員がご参加されました。



沖縄県高等学校英語教育研究会 教員研修会にて

沖縄県

ネイティブの先生も資格取得

Q) About PDA Certified Educational Judge.

I have experienced PDA's impromptu parliamentary debate concept as a strong and attractive debate framework. I worked very successfully with the concept, testing it with both low- and medium- levelled High School student populations at Kyuyo SHS. My students grasped the general flow and roles relatively fast. Many appeared excited to engage in debates, showed significant progress while as a teacher I appreciated to have had a debate tool at my hands that allowed for effective implementation into regular English classes. That was something that I felt very difficult with the still standard research-based debate concept that, to me, seemed only an option for a small group of debate experts as part of their extracurricular activities. PDA's concept made regular class implementation a lot easier.

That I was able to implement the concept so smoothly had also to do with the rigorous training I have received, both in face to face and online workshops with competent PDA staff. The training sessions were well-balanced and provided not only debating and judging opportunities but also gave me important background information. The workshops culminated in the test for the PDA Certified Educational Judge which I took not only to personally achieve mastery but also to foster a high quality implementation of debate at Kyuyo HS.

At my school, I have played a key role in building a curriculum around the concept at my school and bringing debate and critical thinking to life. Japan is still in its infancy state when it comes to critical thinking and activities such as debates or discussions. In my opinion, the fact that foreigners/ ALTs are usually much more familiar with those concepts could allow them to play a very important role when it comes to teaching and implementation of debate concepts. PDA's accessible concepts and inclusive workshop policy have helped me assuming that rather unusual role. (Bojan sensei)



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE

PDA 認定教育ジャッジ資格取得に向けた教員研修例

【集中型】

教育委員会や高英研等のご協力を得、ご多忙な教員の皆様に配慮した2日間集中型研修の例を以下に示します。PDA 認定教育ジャッジ試験受験に必要なディベート実践の回数が確保されています。また、ジャッジ実践3回を研修中に行い、受験条件に必要な残り3回は各校にて生徒に対してジャッジ実践をしていただく、または生徒が参加する交流大会(※)の機会を設け、先生方がジャッジ手法を習得します。

1 日目	内容
10:00	挨拶、ルール説明
10:30	実践 1
11:30	実践 2
12:20	お昼休み
13:00	実践 3
14:00	実践 4
15:00	実践 5
16:00	終了

終了後、任意で情報交換会(懇親会)

2 日目	内容
10:00	挨拶
10:10	実践 6
11:10	実践 7
12:00	お昼休み
12:40	実践 8
13:40	実践 9
14:40	筆記試験
15:10	ディベート実技試験
16:00	終了

【単発型】

まずは即興型英語ディベートを知る、また、単発の研修会を複数回設け、PDA 認定教育ジャッジ試験受験に必要な実践回数を積む、といった形での研修会のご協力もさせていただいています。授業導入に向けたレクチャーなど地域や参加者に応じて、内容を調整しています。2.5～3 時間程度。

時間	内容
13:00	挨拶、ルール説明等
13:40	ラウンド 1
14:30	休憩
14:40	ラウンド 2
15:30	まとめ
16:00	終了

※交流大会

即興型英語ディベートを練習してきた生徒も、初めて行う生徒も、他校の参加者とその場で交流できるプログラムを提案しています。4～6 時間程度。





PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE

これからの即興型英語ディベート

文部科学省の新高等学校学習指導要領において、外国語では「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が各2単位（標準）で導入され、内容にはディベートやディスカッションの活動が明記されています。専門学科（文理学科や国際科学、国際教養など）における教科「英語」における科目では、「ディベート・ディスカッションⅠ、ディベート・ディスカッションⅡ」という名称も示され、授業としてのディベートの必修科目化がもう目の前にきています。

限られた授業時間で、英語4技能をはじめ、さまざまなスキルを最大限に向上させられるよう、適切に即興型英語ディベートが活用されることを期待しています。

データを覚えたり、過去の事例を探したりすることはAIの最も得意とすることです。しかし、今のところ、文章の意味を理解し、論理を組み立てることはAIの苦手とするところ。よって、これから我々は暗記などAIの得意とするところで勝負をするのではなく、人間としての強みをさらに鍛えていく必要があります。即興型英語ディベートでは、誰にでもわかるよう丁寧に論理を説明することはもちろん、聴衆が納得できる道徳的な考察、また聴衆を惹きつける紳士的な態度まで鍛える機会に恵まれます。限られた会議時間などでは、最も重要なことを簡潔述べ、論点を的確に素早く整理する力が重要となります。このように、将来に役立つスキルを効果的に伸ばしていく機会を提供することは重要であり、即興型英語ディベートはその一翼を担っています。

「ディベート」という言葉（これから必要になる教育という漠然としたイメージ）に踊らされず、何のためにディベートをするのか、今一度、時代が求めるスキルを整理しながら考えることが重要ではないでしょうか。それを前提に、どのような形式のディベートをすべきであるか、どのようにディベートを取り入れるべきか、よく考えて、かけがえのない時間を使わねばなりません。

PDAで取り扱う即興型英語ディベートは、授業の50分で完結し、そのルールや補助教材を含む系全体の設計は、工学的にも研究されたものです。また、PDA認定教育ジャッジによるフィードバックもコミュニケーション場の特徴を捉えて、システム設計されたものです。このように、時代の変化にも敏感になりながら構築されたPDAでの即興型英語ディベートは、文部科学省事業をはじめ、数々の地域での教員研修（悉皆、初任者研修など多岐にわたります）で導入されています。

PDA認定教育ジャッジの先生方をはじめとし、これからも即興型英語ディベートを一手法として、グローバルな社会において将来を担う生徒のみなさんの生きる力を向上できますよう願っています。



PDA 代表理事 中川智皓
(大阪府立大学 工学研究科 准教授、
国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究員 (兼任)
東京大学生産技術研究所 協力研究員)

お問合せ
一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学内
jimukyoku@pdpda.org



授業でできる即興型英語ディベート、中川智皓著、ネリーズ出版 のお求めは、ネリーズオンラインストアまで。
学校の教科書としても使用されています。

